

T O P I C S

第33回 豚の繁殖衛生セミナーの開催

平成18年8月24日～25日の2日間、動物衛生研究所大会議室において、第33回豚の繁殖衛生セミナーが開催された。今回は、公立、独立行政法人及び民間の試験研究機関や大学から46名が参加した。一般演題9題に加え、1題の特別講演が行われた。演題及び発表者は次のとおり。

- 1) 時間分解蛍光測定法を用いた豚血中 LH 濃度の測定
野口 倫子 (麻布大学) ほか
- 2) 黄体開花期の種雌豚に対するリポソーム化 PGF2 α 投与と卵巣の反応性
水上 佳大 (麻布大学) ほか
- 3) 琉球在来豚(アゲー)の効率的繁殖技術の確立(短報)
仲村 敏 (沖縄県畜産研究センター) ほか
- 4) 成分既知体外成熟培地への TGF- α 添加がブタ胚の発生に及ぼす影響
水戸 友美 (機能性ペプチド研究所) ほか
- 5) 単為発生胚を移植したレシピエント豚におけるステロイドホルモンの動態と生殖器官の形態的变化
河原崎達雄 (静岡県中小家畜試験場) ほか
- 6) 特別講演 ブタ卵成熟機構における卵丘膨化の役割
横尾 正樹 (東北大学)

- 7) 豚における発情周期のステージと子宮内膜炎誘発処置時の臨床所見

松木 信賢 (麻布大学) ほか

- 8) 豚人工授精センターにおける衛生管理実態調査
中根 崇 (千葉県畜産総合研究センター) ほか
- 9) 子宮角内胚移植用カテーテルを用いた体外生産胚の非外科的移植
鈴木 千恵 (動物衛生研究所) ほか
- 10) 豚体内発生胚の日齢及び受胎豚の発情周期が非外科的移植による受胎率に及ぼす影響
検崎 真司 (鹿児島県農業総合開発センター) ほか

今回も、それぞれの演題について活発な意見交換や情報交換がなされた。また、総合討論において、セミナー通信の発行について議論され、事務局で発行形態について検討することが了承された。次回以降も年1回程度開催することが了承されたが、次回開催時期および場所については、事務局と関係機関で調整することとした。

(生産病研究チーム 吉岡 耕治)

石川県立金沢泉丘高校つくばサイエンスツアー

平成18年10月13日(金)に石川県立金沢泉丘高等学校の生徒8名、引率の先生1名が来所し実習指導(つくばサイエンスツアー)が行われました。

石川県立金沢泉丘高等学校は、文部科学省の研究開発学校「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受け独創性・創造性を高めるカリキュラムや指導法、高大連携のあり方等の研究開発に取り組んでいます。今回は、その事業の一環として10月12日(木)から14日(土)の3日間「筑波宇宙センター」をはじめつくば市の8研究機関に施設研修(つくばサイエンスツアー)を依頼したとのことです。

当所においては、牛の診断関係の実習指導で、内容は以下のとおりでした。

- 研究所の概要説明
- 実習全体説明
- 牛の診察関係
- 診断実習(体温・心拍数測定等)

- 血球数測定(血球計算機)
- 超音波診断(肝臓の検査)
- 所内見学
- 血漿分離と血糖測定
- まとめ

(情報広報課)

